



WWF® for a living planet®

資料 3

## 第2回風力発電施設と自然環境保全に関する研究会

# Win-Win実現のための リードタイムは残り少ない

2007年5月10日

WWFジャパン 自然保護室

岡安 直比





# IPCC第4次評価報告書発表(2月2日)の認識 (WG1:自然科学的根拠)

- すでに温暖化は起こっており、人間活動による温室効果ガスの排出増加によると断定。
  - 20世紀後半の北半球の平均気温は過去1300年のうちで最も高温で、最近の12年間のうち1996年以外の年は1850年以降で最も暖かい12年である。
  - 過去100年に世界の平均気温は**0.74** 上昇
  - 21世紀末までの海面上昇は18cm ~ 59cm
  - 2030年までは10年あたり0.2 気温上昇
- 【これは植物が適応できる範囲(10年間に0.05 )を大幅に越えている】

(出典 “Another reason for concern: regional and global impacts on ecosystems for different levels of climate change” R.Leemans, B.Eickhout, Global Environmental Change 14 (2004) 219-228)



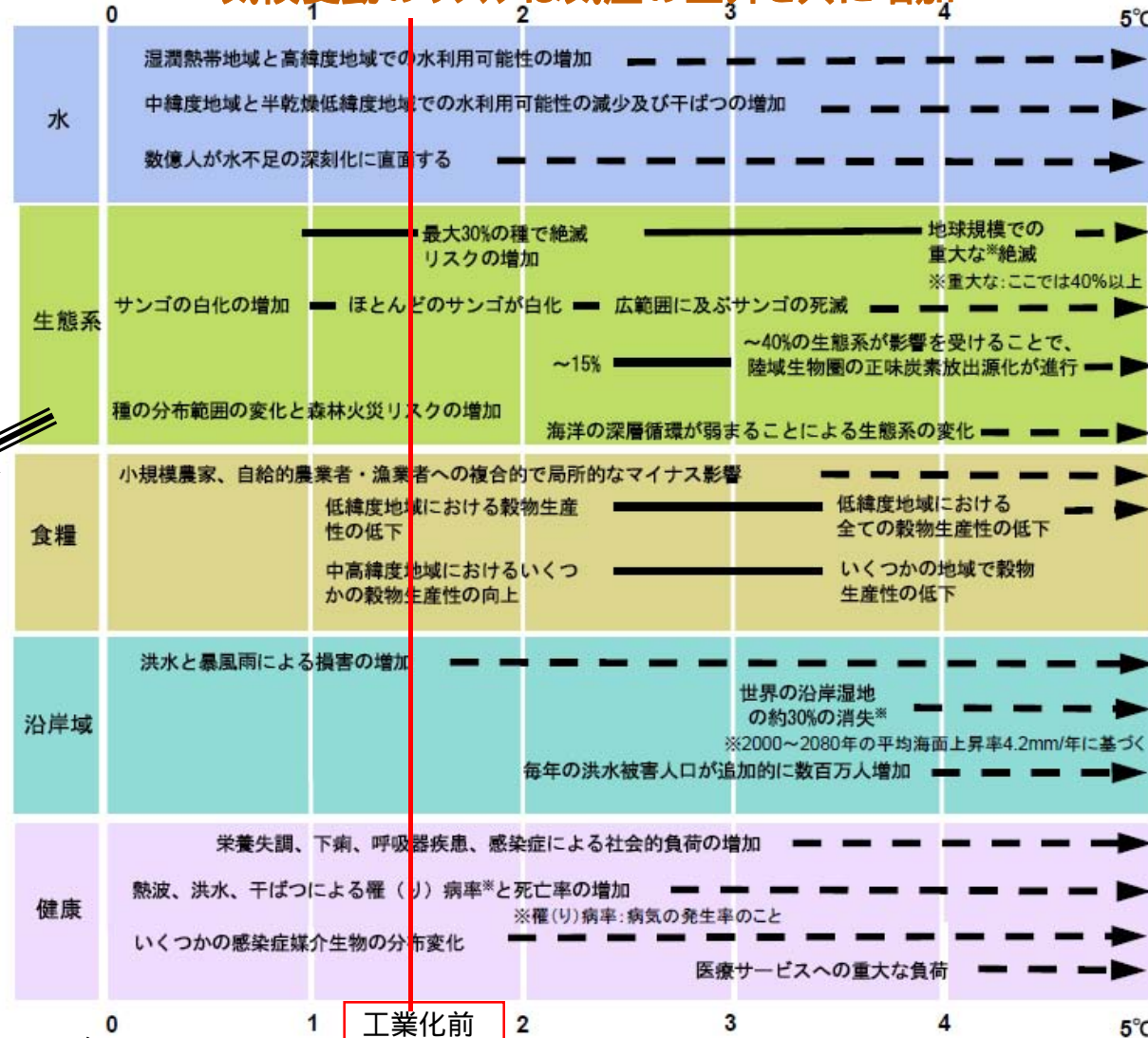


### 世界平均気温の上昇による主要な影響

(影響は、適応の度合いや気温変化の速度、社会経済シナリオによって異なる)

IPCC  
WGII  
2007.4.

## 気候変動のリスクは気温の上昇と共に増加



脆弱な生態系・生物多様性への影響:

- ・サンゴの白化
- ・渡り鳥の生息地移動、不適応
- ・ホッキョクグマ絶滅、等

工業化前より2



# 気候変動が鳥類に与える脅威



気候変動による影響で、エトピリカのカナダ最大の繁殖コロニーが、繁殖不可能になるかもしれない。

・特に影響を受けるのは、渡り鳥、山岳や島嶼鳥類、水禽類、極地方に生息する鳥類、海鳥。

渡り鳥が渡りに失敗する例が出ている。

生態系の変動速度に同調できない種が増えている。

・産業革命前に比べ平均気温が2℃上昇した場合（現在は0.8℃）、絶滅の比率はヨーロッパで38%、オーストラリア北部で72%に達する可能性。

イギリス北海沿岸(2004)：イカナゴ不足で7000つがいのオオトウゾクカモメやウミガラスのコロニーが繁殖失敗。  
カリフォルニア南部沿岸(2002)：旱魃により、ズアカスズメモドキ、ミソサザイモドキ、2種のトウヒチョウの繁殖率が例年の3%に落ち込む。

アジア：ソデグロツル(絶滅危惧種)の繁殖地のツンドラの70%が失われ、旱魃で越冬地の国立公園が使えなくなる。

『Bird Species and Climate Change: The Global Status Report』Climate Risk Pty Ltd, (2006)

international specialists in climate change risk management

気候変動による影響の世界的傾向を見るために、すべての大陸から200件以上の鳥類に関する学術論文を再編。





# 行動は一刻も早く取らねばならない

<http://www.stabilisation2005.com/day2/Meinshausen.pdf>

